

京都市 母子保健に関する意識調査

【結果報告書】 (概要版)



平成26年10月
京都市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査概要.....	1
3	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	3
1	母親と子どもの状況について.....	3
2	母親の就労状況について.....	4
3	妊娠・出産について.....	5
4	子育て中のことについて.....	12
5	事故予防に関する意識について.....	20
6	家族の飲酒と健康への意識について.....	21
7	家族の喫煙と健康への意識について.....	23
8	食生活について.....	27
9	口腔の健康に関する意識について.....	30
10	少子化対策について.....	32

子どもを共に育む 京都市民憲章



わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、
慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを
大切にして、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、
京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切にして、
子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが
求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、
命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で
臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、
学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、
共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。



京都はぐくみ憲章

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月5日（育児ニコニコ笑顔の日）制定
3月13日 京都市会が憲章推進を決議

I 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、子育て支援施策の総合的な計画として、平成 22 年 3 月に「京都市未来こどもプラン」（以下「現行プラン」といいます。）を策定し、子どもたちの笑顔のためにみんなで子育てを支え合えるまちづくりを進めてきました。

現行プランの計画期間は、平成 26 年度までとなっていることから、京都市では、現行プランを見直し、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 箇年を計画期間とする新たなプランを策定することとしています。

この新たなプランは、平成 27 年から実施が予定されている「子ども・子育て支援新制度」において、市町村が策定することとされている「市町村子ども・子育て支援事業計画」のほか、「ひとり親家庭自立促進計画」、「母子保健計画」等を一体的に盛り込み、策定するものです。

本調査は、この新たなプランの策定に際し、京都市における子育て支援施策の方向性を検討するための基礎資料とすることを目的に実施したものです。

2 調査概要

- 調査地域 : 京都市全域
- 調査対象者 : 平成 25 年 8 月 15 日から 9 月 20 日の間に保健センター・支所における乳幼児健康診査（4 か月児、8 か月児、1 歳 6 か月児、3 歳児）に来所した保護者
- 調査期間 : 平成 25 年 8 月 15 日から 9 月 27 日まで
- 調査方法 : 保健センター・支所における乳幼児健康診査会場でアンケート票配布・郵送回収（無記名回答）

	配布数	有効回収数	有効回収率
母子保健に関する意識調査	4,332	1,725	39.8%
（参考）平成 20 年調査	3,906	1,726	44.2%

3 調査結果の表示方法

- 回答はすべて平成 25 年 8 月 1 日時点の状況に基づいています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合

計が 100.0%を超える場合があります。

- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 問 16・17・18 については、お父さんがおられる方におたずねしましたが、解答欄が未記入のものについては「無回答」か「父親がいない」か判別できないため、その分は計上していません。

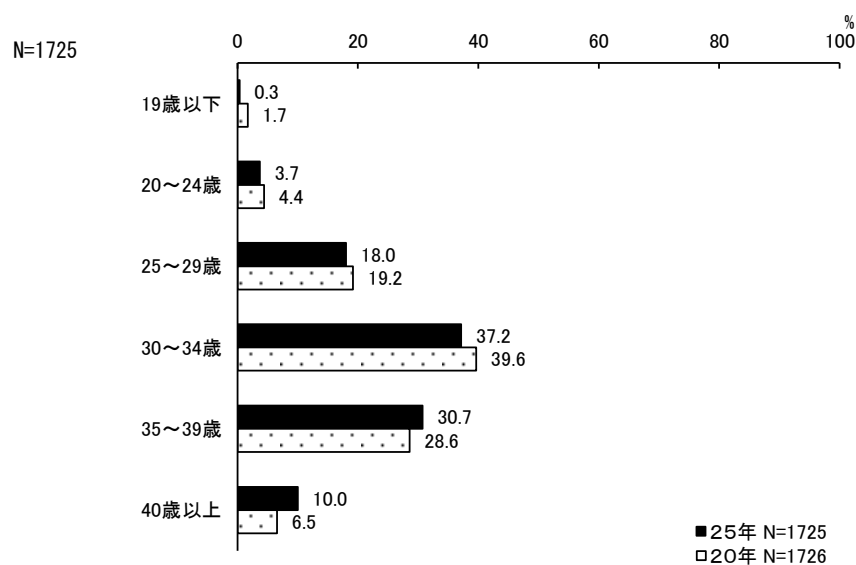
Ⅱ 調査結果

1 母親と子どもの状況について

(1) 母親の年齢（問1）

30歳から34歳の割合が37.2%と最も高くなっています。

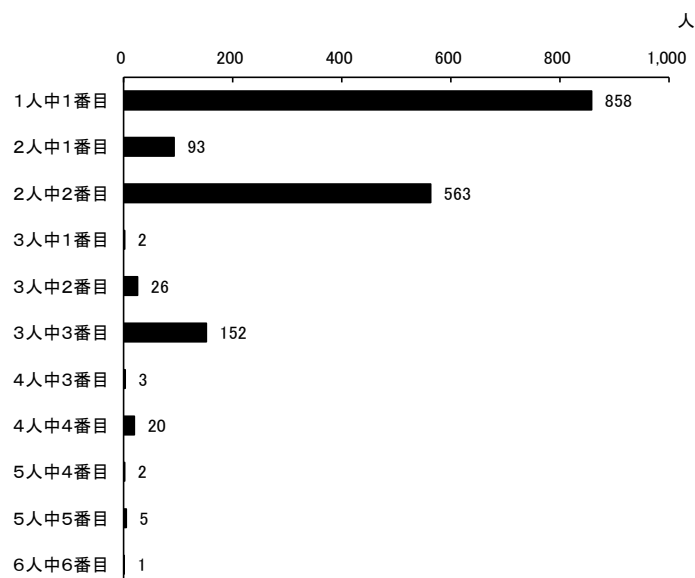
35歳以上の割合は、40.7%であり、平成20年調査の35.1%と比較すると、増加しています。



(2) 出生順位（問3）

1人中1番目の割合が、最も高くなっています。

N=1725

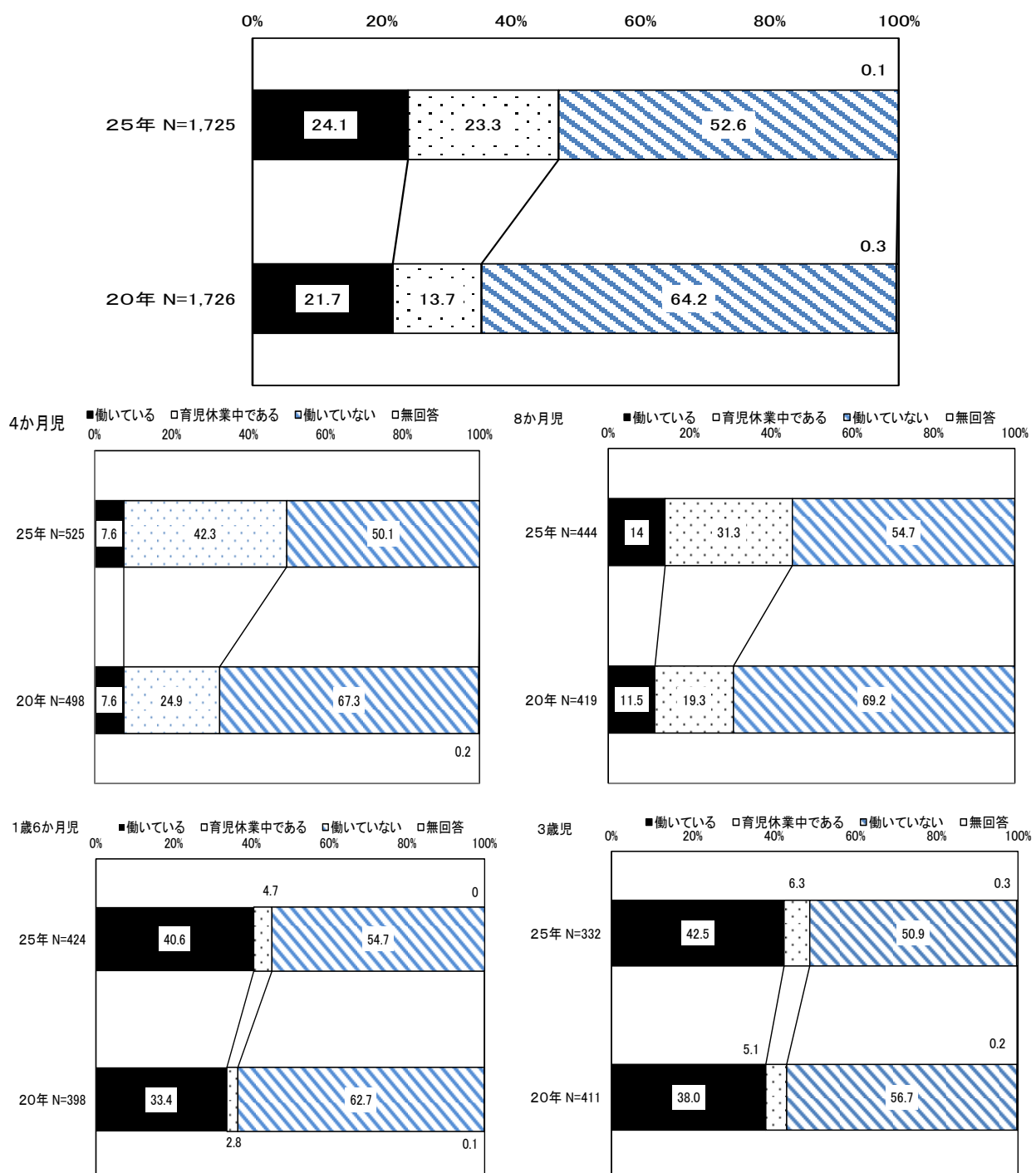


2 母親の就労について

(2) 母親の就労（問4）

就労している母親（「働いている」、「育児休業中である」）の回答者は全体で47.4%であり、平成20年調査の35.4%と比較して、増加しています。特に8か月児では30.8%から45.3%と大幅に増加しています。

■働いている □育児休業中である □働いていない □無回答

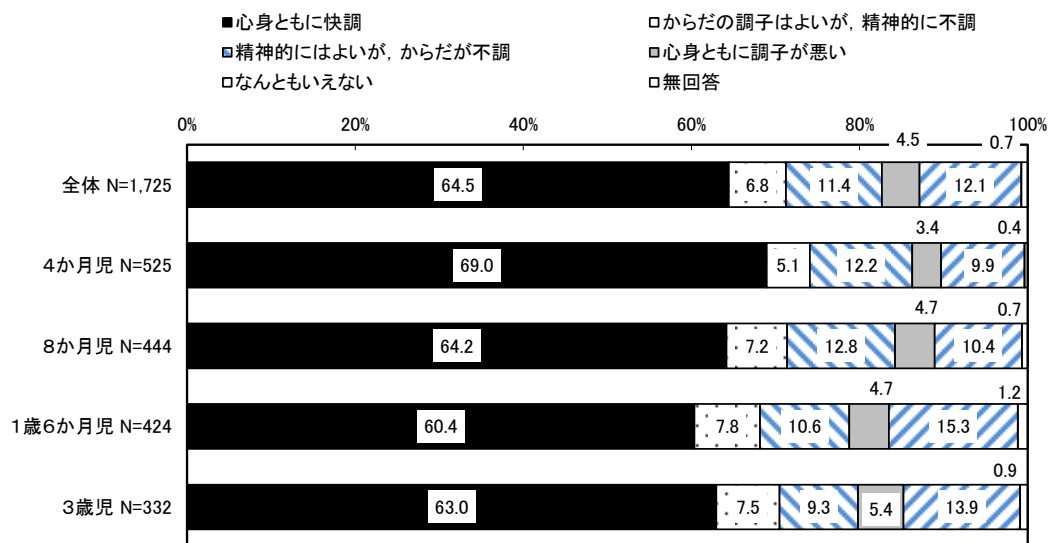


3 妊娠・出産について

(1) 母親の心身の状況（問5）

「心身ともに快調」は、全体の64.5%と最も高く、平成20年調査とほぼ同様となっています。

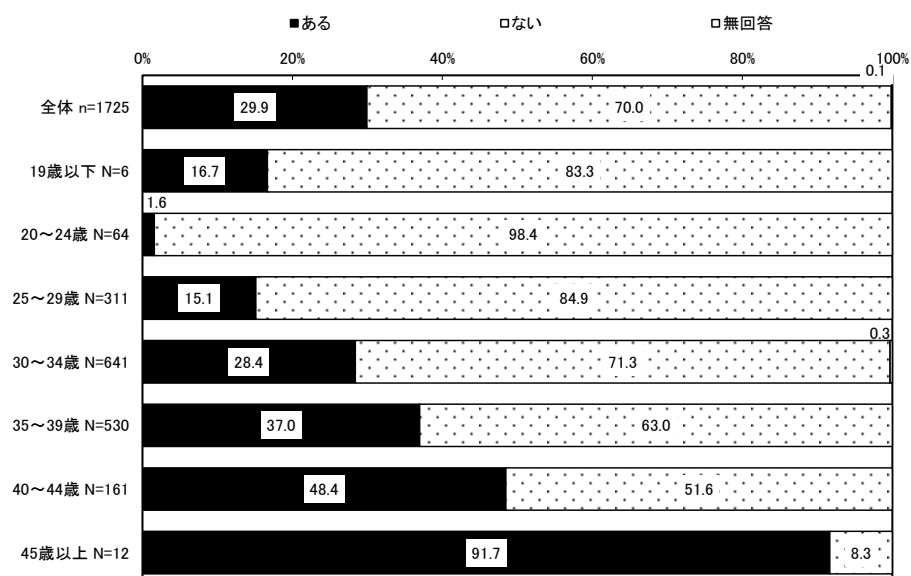
一方で、「からだの調子はよいが、精神的に不調」、「精神的にはよいが、からだの不調」、「心身ともに調子が悪い」の割合は、22.7%となっています。



(2) 不妊の悩み（問6）

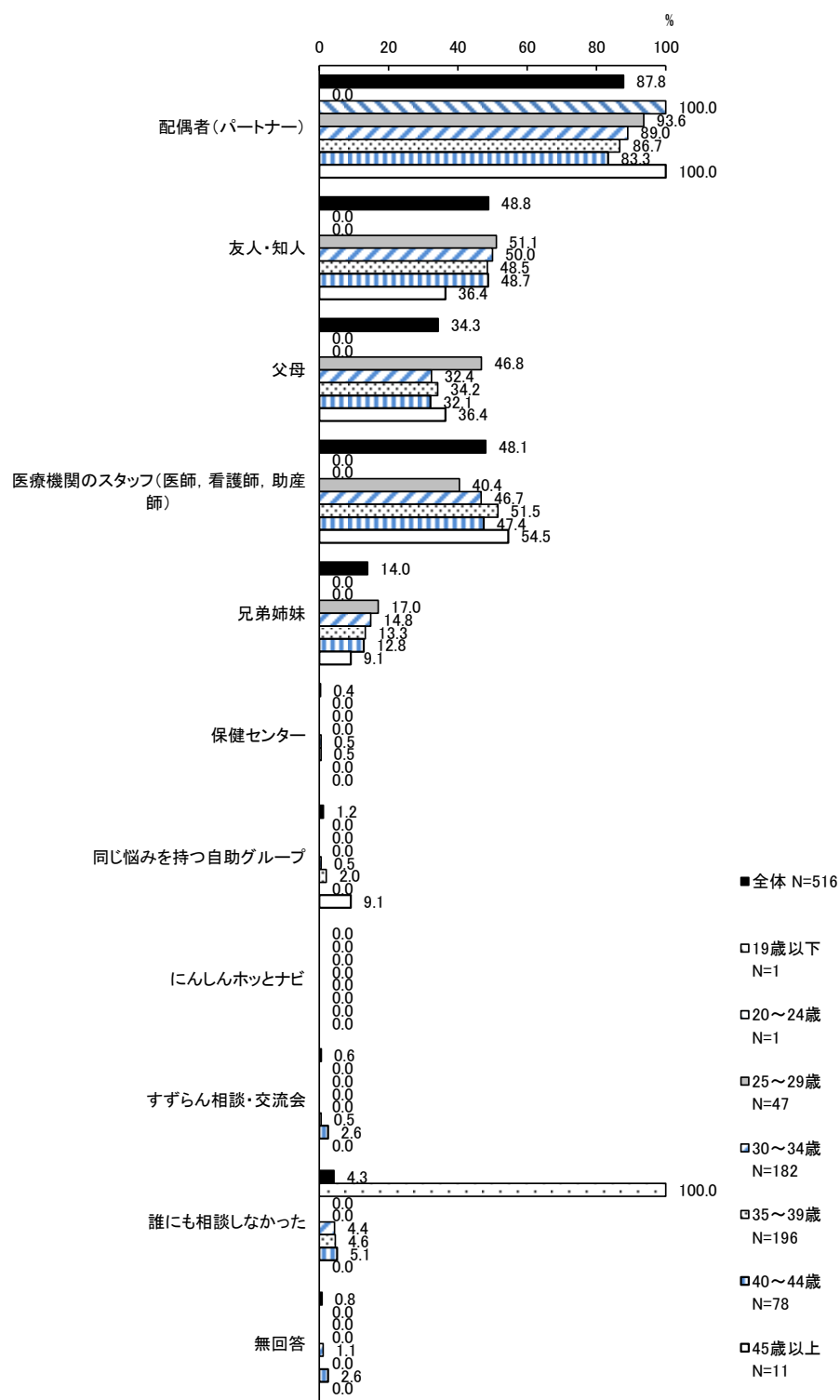
母親の年齢があがるにつれて、不妊に悩んだ経験がある割合が増加しています。

母親の年齢別では、40歳から44歳で48.4%、45歳以上で91.7%が不妊に悩んだ経験をもっています。



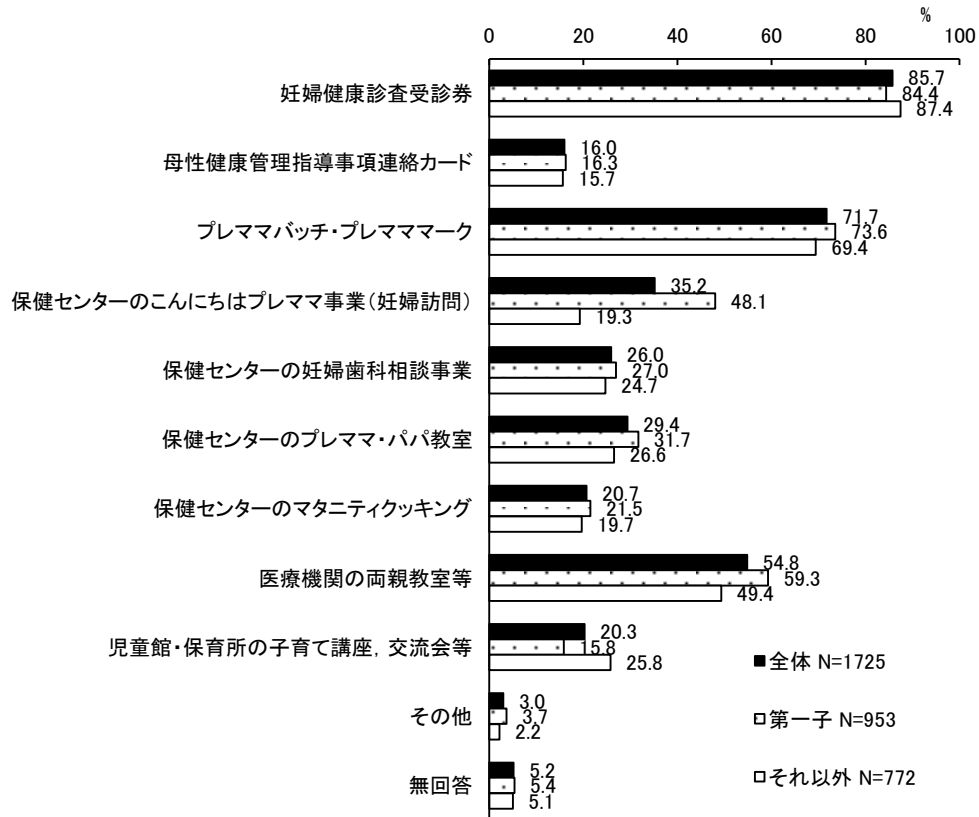
(3) 不妊の相談相手（補問6-2）

全体では、「配偶者（パートナー）」の割合が87.8%と最も高くなっています。



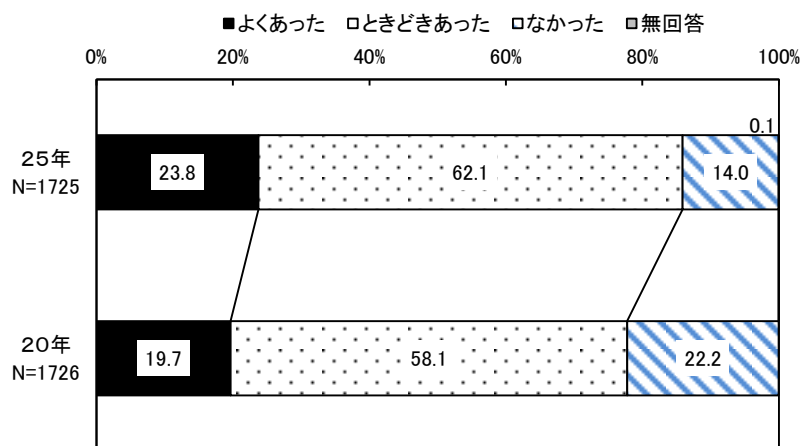
(4) 妊娠中に知っている又は、利用した施策やサービス（問7）

「妊婦健康診査受診券」の割合が 85.7%で最も高く、次に「プレママバッチ・プレマママーク」が71.7%となっています。



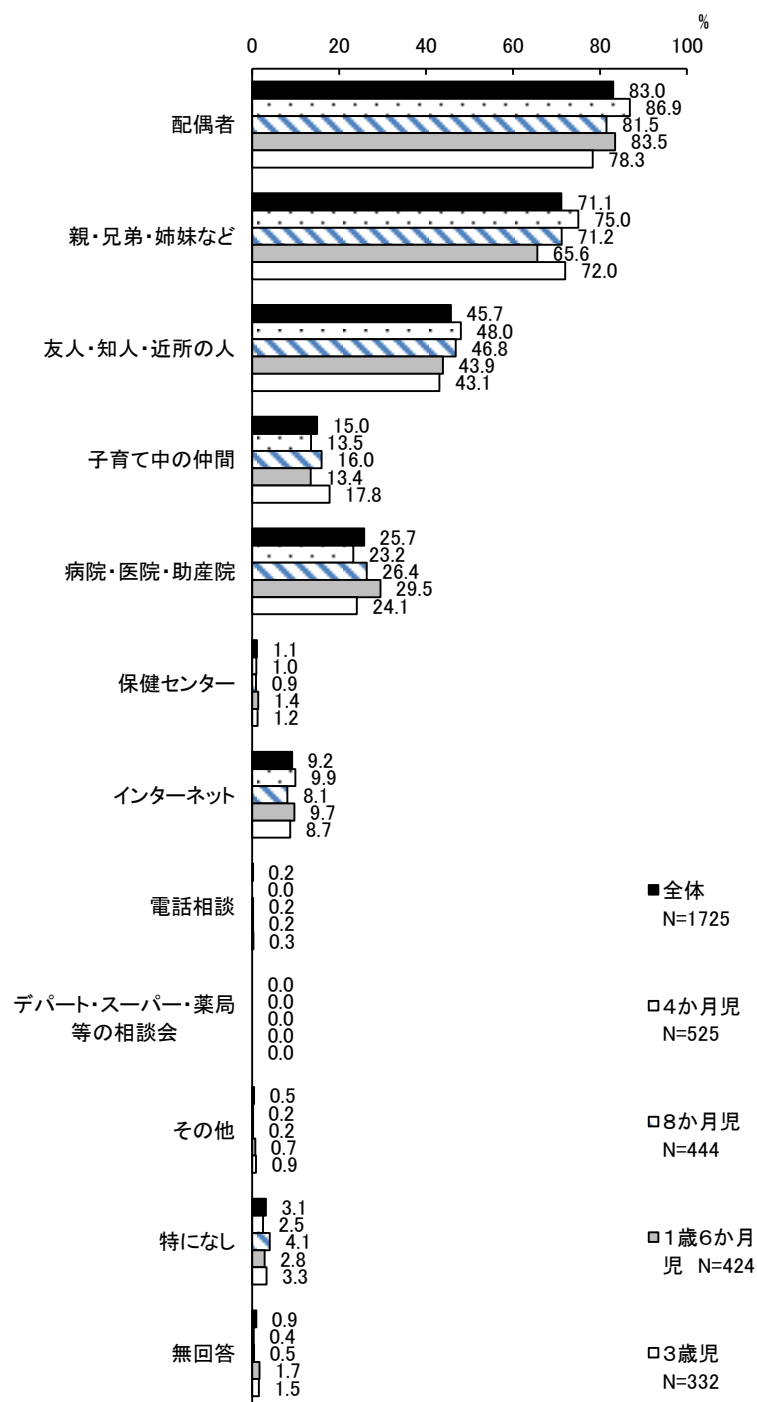
(5) 妊娠中、妊娠・出産・育児についての心配・不安（問8）

妊娠中に、妊娠・出産・育児について、心配・不安が「よくあった」、「ときどきあった」の割合は 85.9%となっており、平成 20 年調査の 77.8%と比較して、増加しています。



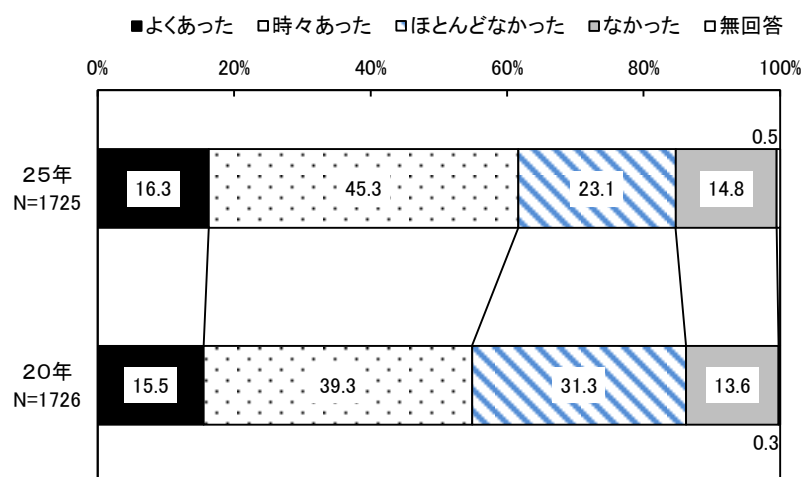
(6) 妊娠中の相談相手 (問9)

子どもの年齢別では、子どもの年齢に関わらず、「配偶者」が全体で83.0%と最も高くなっており、次に、「親・兄弟・姉妹など」、「友人・知人・近所の人」となっています。



(7) 妊娠中や出産後間もなく、精神的に落ち込むことやイライラを感じること
(問10)

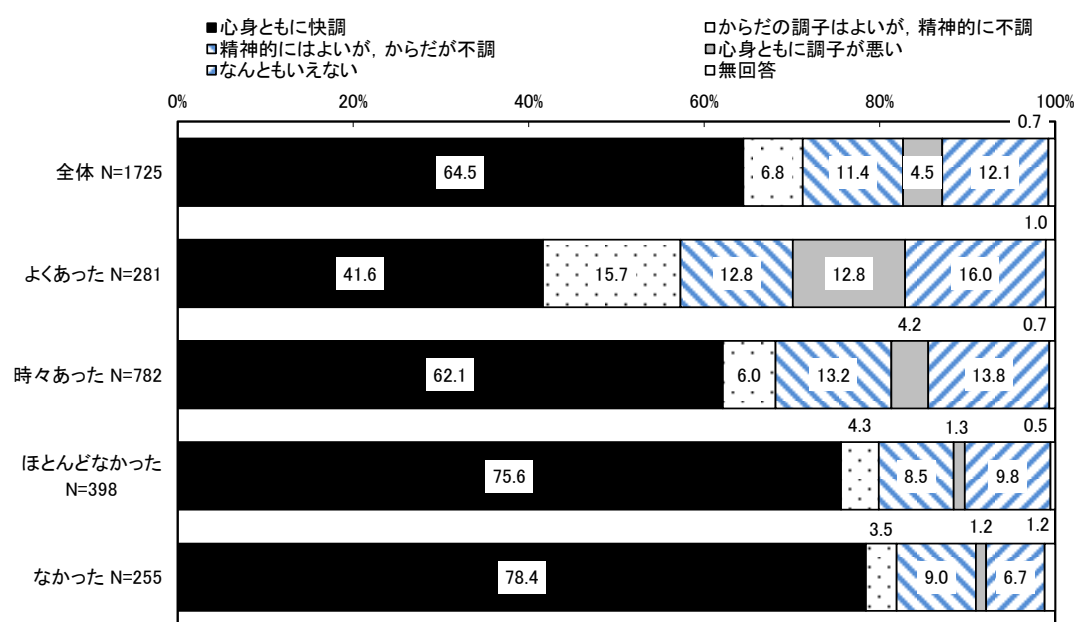
「よくあった」、「時々あった」の割合は、61.6%となっており、平成20年調査の54.8%と比較して増加しています。



<母親の心身の状況(問5)と妊娠中や出産後間もなく、精神的に落ち込むことやイライラを感じること(問10)の関係>

精神的に落ち込むことが「なかった」者又は「ほとんどなかった」者は、「心身ともに快調」の割合が高くなっています。

精神的に落ち込むことが「よくあった」者は、「からだの調子は良いが、精神的に不調」、「心身ともに調子が悪い」の割合が高くなっています。

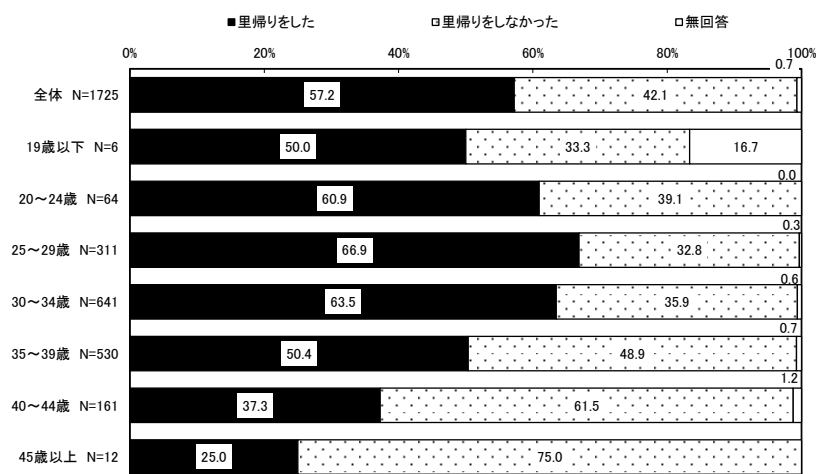


(8) 出産前後の里帰り (問 1 1)

全体の57.2%が里帰りをしています。

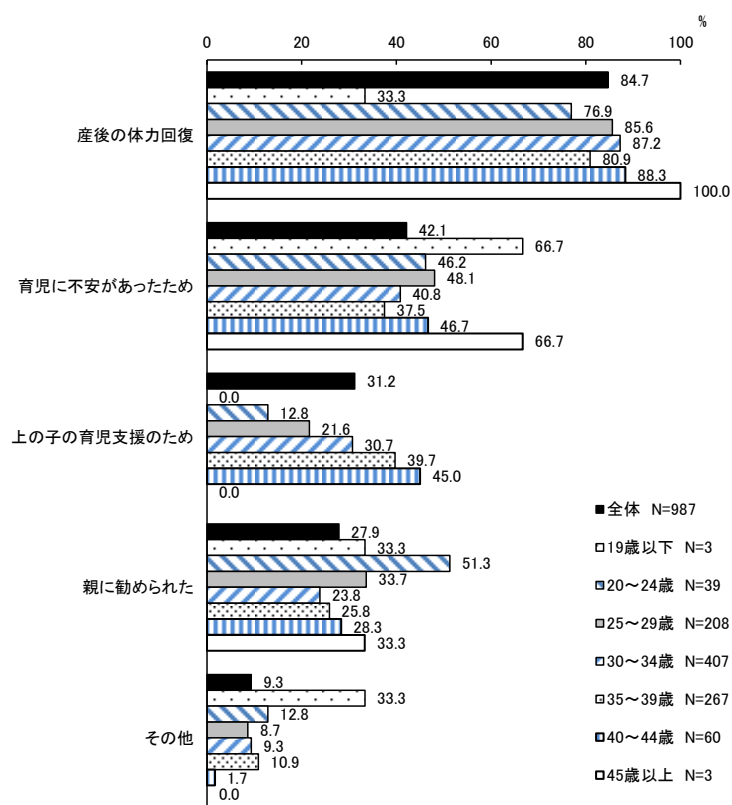
年齢別では、25 歳から 29 歳で「里帰りをした」の割合は 66.9%と最も高くなっています。

一方、30歳以降、母親の年齢があがるにつれて、「里帰りをした」の割合は減少し、40 歳から 44 歳で「里帰りをした」の割合は、37.3%であり、45 歳以上で 25.0%となっています。



(9) 里帰りの理由 (複数回答) (補問 1 1 - 2)

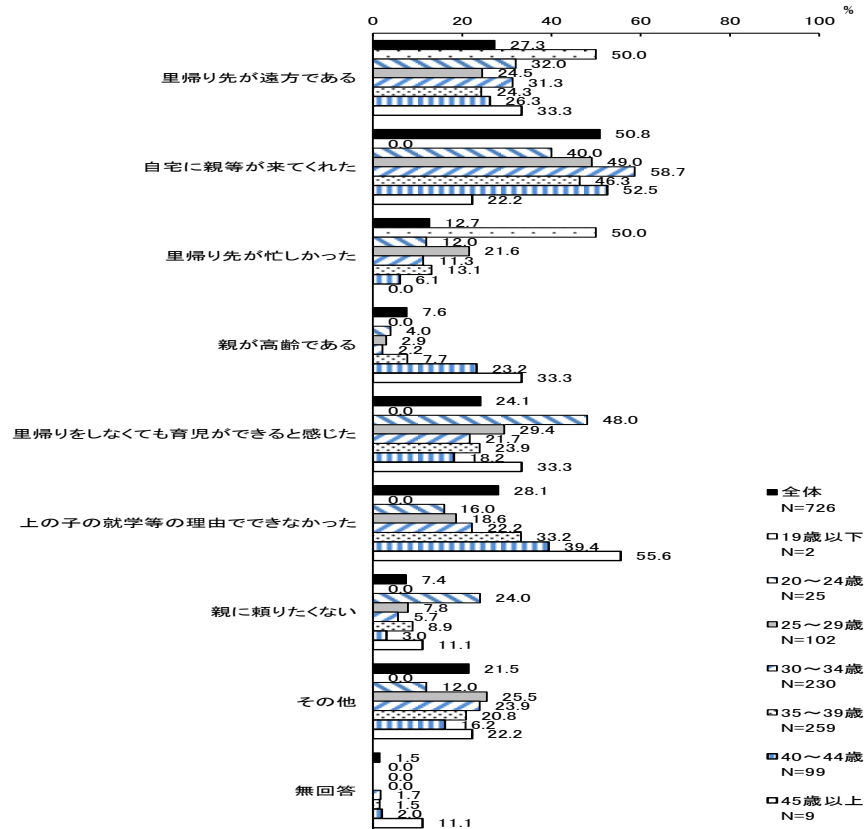
全体では、「産後の体力回復」の割合が最も高く、次いで、「育児に不安があったため」となっています。



(10) 里帰りしなかった理由（複数回答）（補問11-3）

全体では、「自宅に親等が来てくれた」が最も高く、次いで、「上の子の就学等の理由でできなかった」、「里帰り先が遠方である」の順となっています。

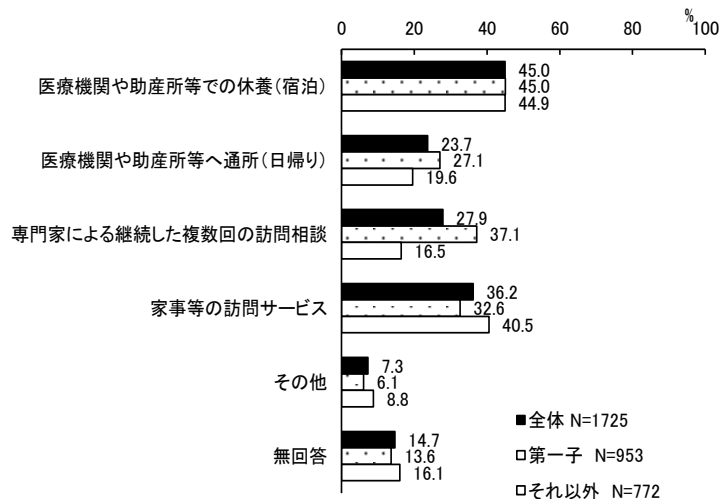
40歳以上の母親が里帰りをしなかった理由を全体と比較すると、「親が高齢である」、「上の子の就学等の理由でできなかった」の割合が高い傾向がみられています。



(11) 産後に利用したいと思うサービス（複数回答）（問12）

「医療機関や助産所等での休養（宿泊）」を希望する割合は、第1子では45.0%、それ以外では44.9%であり、第1子とそれ以外共に最も高くなっています。

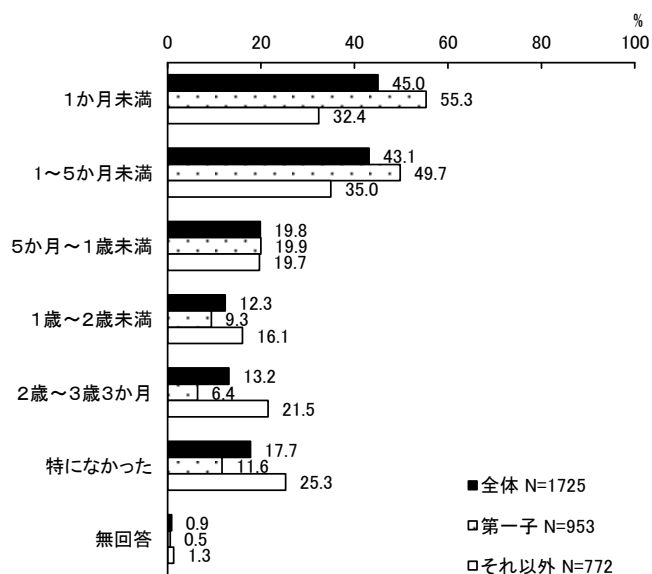
第1子とそれ以外では、2番目に希望するサービスとして、第1子は「専門家による継続した複数回の訪問相談」であり、それ以外においては、「家事等の訪問サービス」となっています。



4 子育て中のことについて

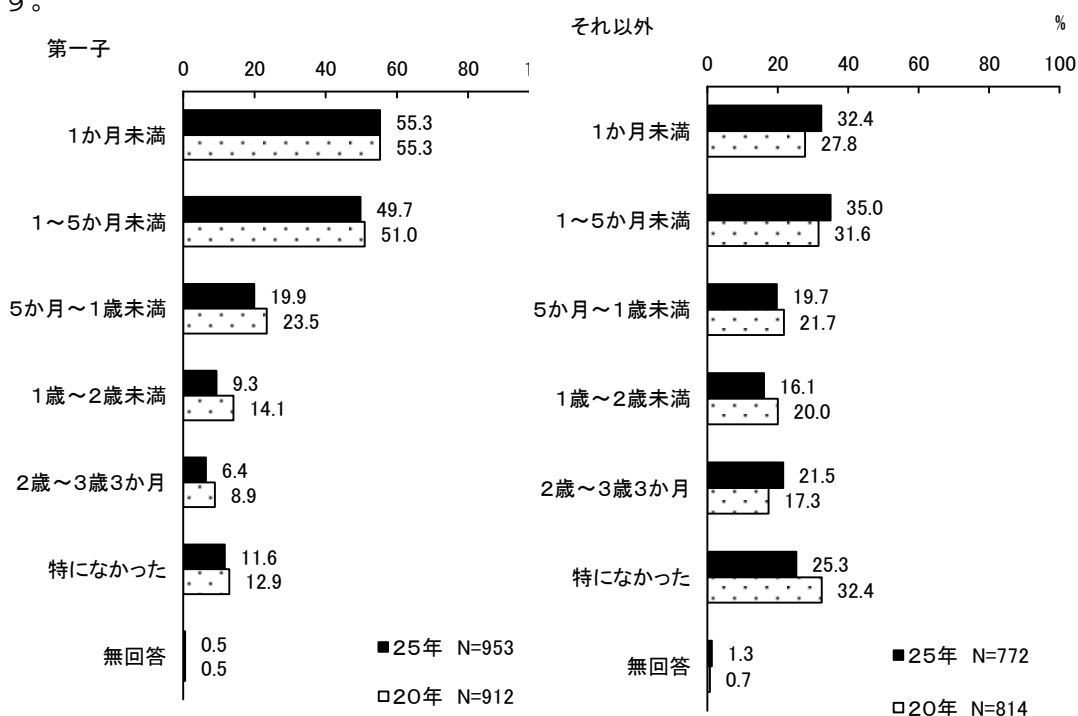
(1) 悩みや不安が大きかった時期（複数回答）（問 13）

第1子とそれ以外共に、「1 か月未満」、「1～5 か月未満」の割合が高くなっています。特に、第1子でその割合が高くなっています。



第1子とそれ以外共に、「特になかった」の割合は、平成20年調査と比較すると減少しています。

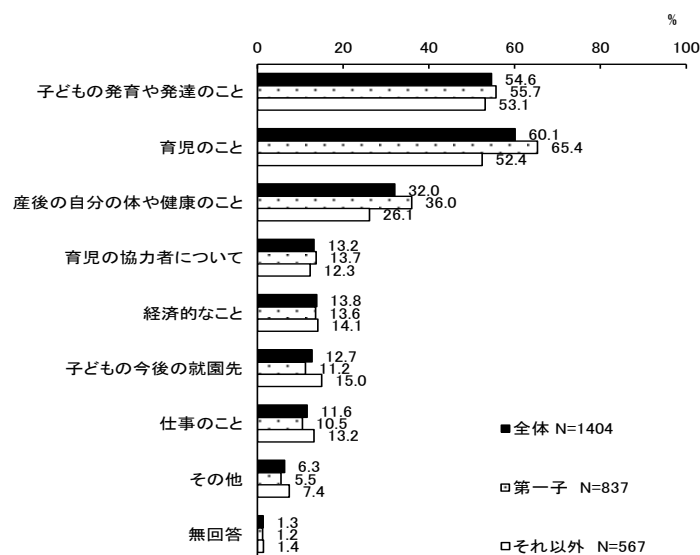
特に、それ以外は平成20年調査の32.4%と比較して、25.3%へ大幅に減少しています。



(2) 悩みや不安の内容（複数回答：3つまで）（補問13-2）

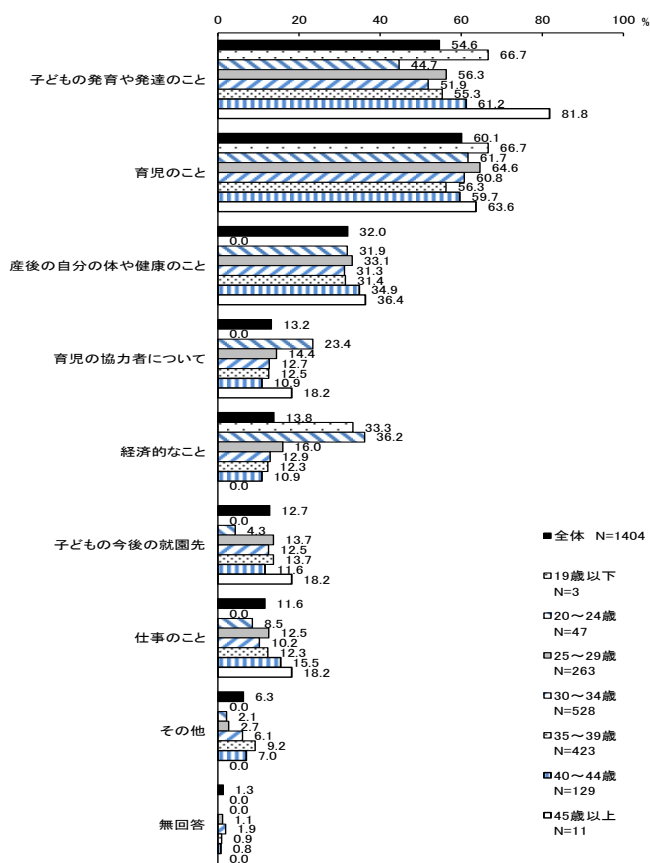
第1子とそれ以外共に、「子どもの発育や発達のこと」、「育児のこと」、「産後の自分の体や健康のこと」の割合が高くなっています。

「育児のこと」、「産後の自分の体や健康のこと」の割合は、第1子で特に高くなっています。



母親の年齢別では、「子どもの発育や発達のこと」の割合が、20歳以降、母親の年齢があがるにつれて、高くなる傾向があります。

また、「経済的なこと」の割合は、24歳以下の母親で高い傾向がみられています。



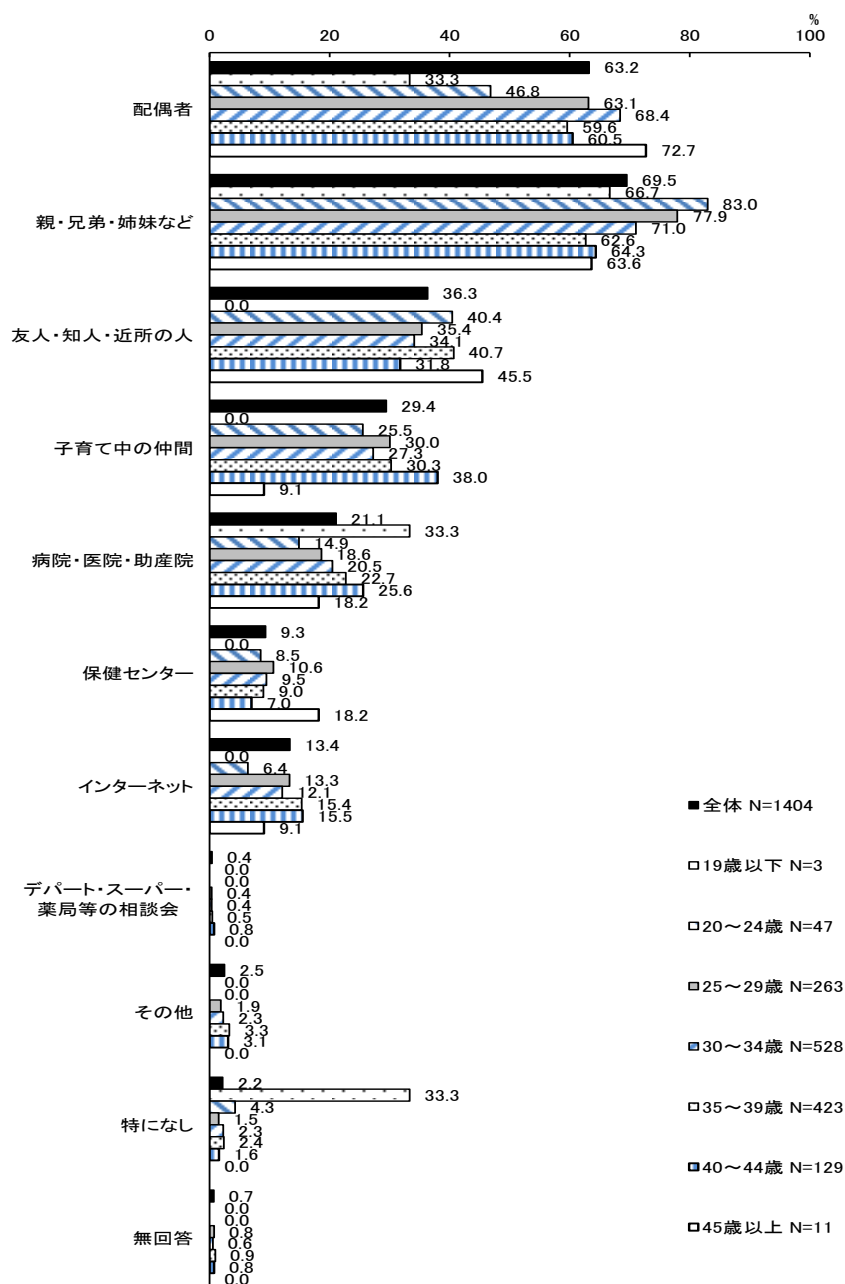
(3) 育児についての悩みや不安の相談相手（複数回答：3つまで）（補問13-3）

「親・兄弟・姉妹など」、「配偶者」、「友人・知人・近所の人」の順で割合が高くなっています。

母親の年齢別では、「親・兄弟・姉妹など」の割合は、20歳以降、母親の年齢があがるにつれて、割合が減少する傾向にあります。

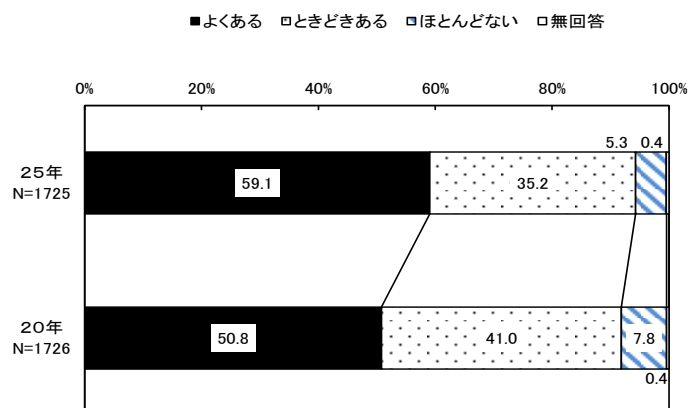
「子育て中の仲間」の割合は、40歳から44歳の母親で最も高くなっています。

「保健センター」の割合は、45歳以上の母親で最も高くなっています。



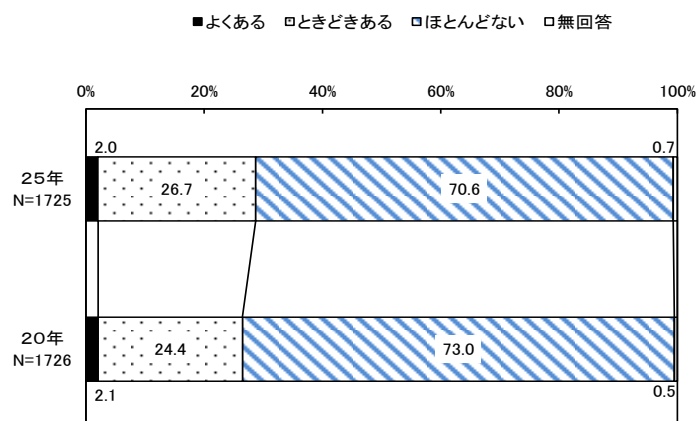
(4) ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間はあるか（問 1 4）

「よくある」、「ときどきある」の割合は 94.3%であり、平成 20 年調査の 91.8%と比較して増加しています。

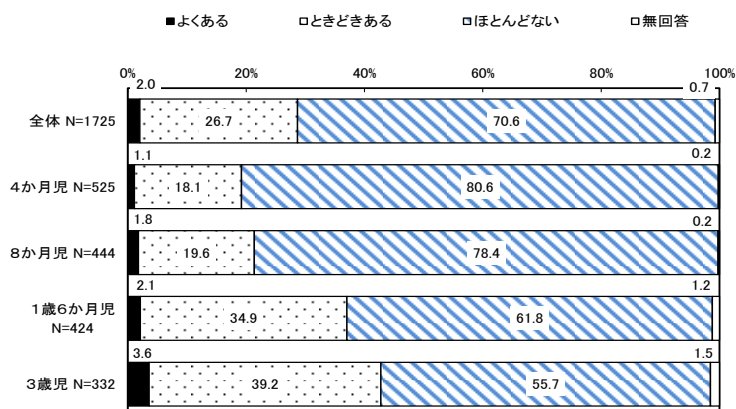


(5) 育てにくさ（問 1 5）

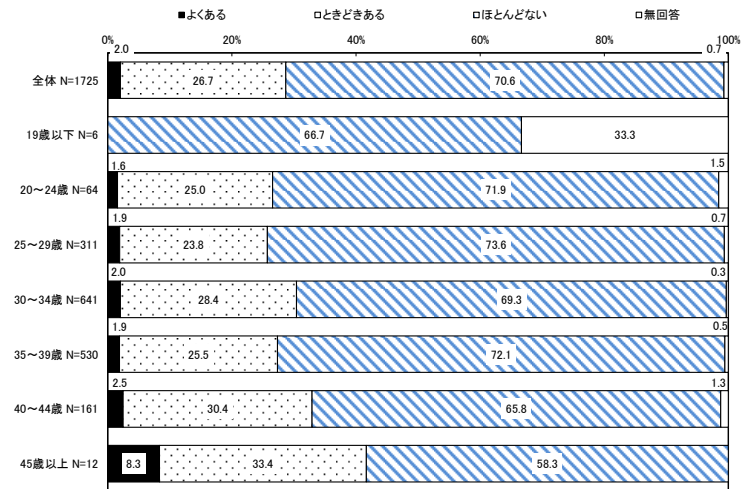
「よくある」、「ときどきある」の割合は、28.7%であり、平成 20 年調査の 26.5%と比較して増加しています。



子どもの年齢別では、子どもの年齢があがるにつれて、「よくある」、「ときどきある」の割合は増加しています。

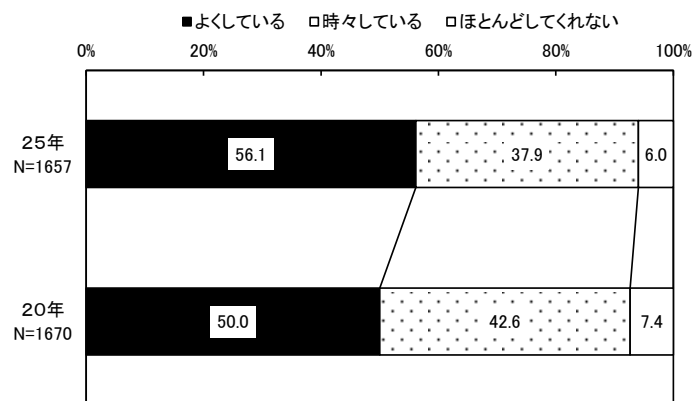


母親の年齢別では、40歳以降、母親の年齢があがるにつれて、「よくある」の割合が増加し、「ほとんどない」の割合が減少する傾向があります。



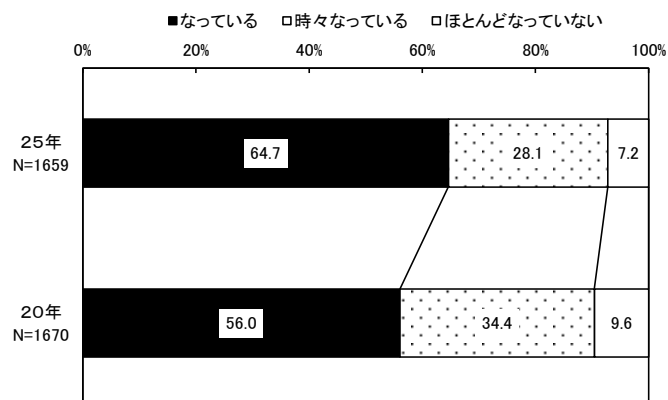
(6) 父親の育児参加 (問 16)

「よくしている」の割合は56.1%であり、平成20年調査の50.0%と比較して増加しています。また、「ほとんどしてくれない」の割合は、平成20年調査の7.4%から6.0%に減少しています。



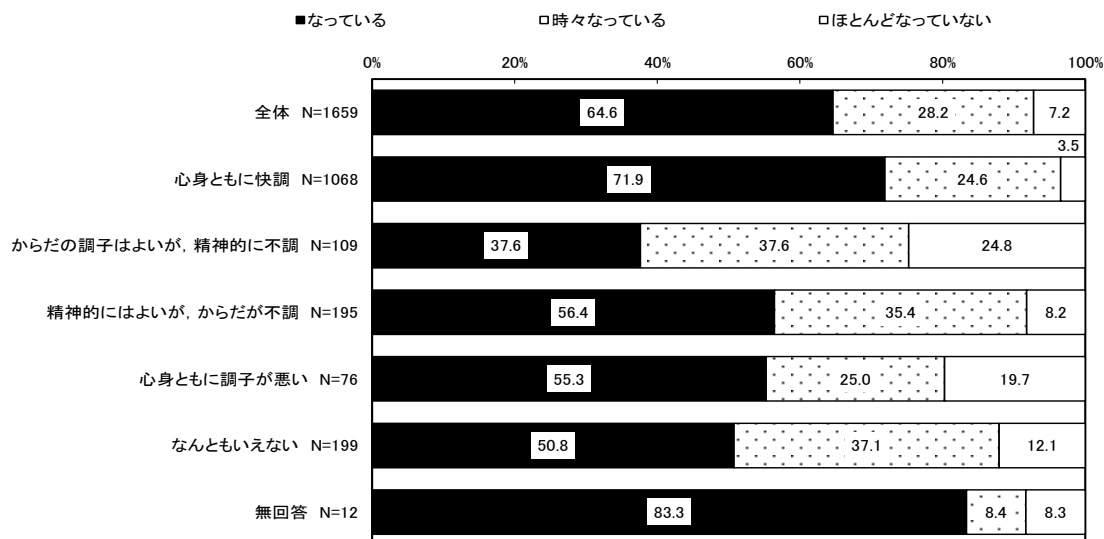
(7) 父親の精神的な支え (問 17)

「なっている」、「時々なっている」の割合は92.8%であり、平成20年調査の90.4%と比較して増加しています。



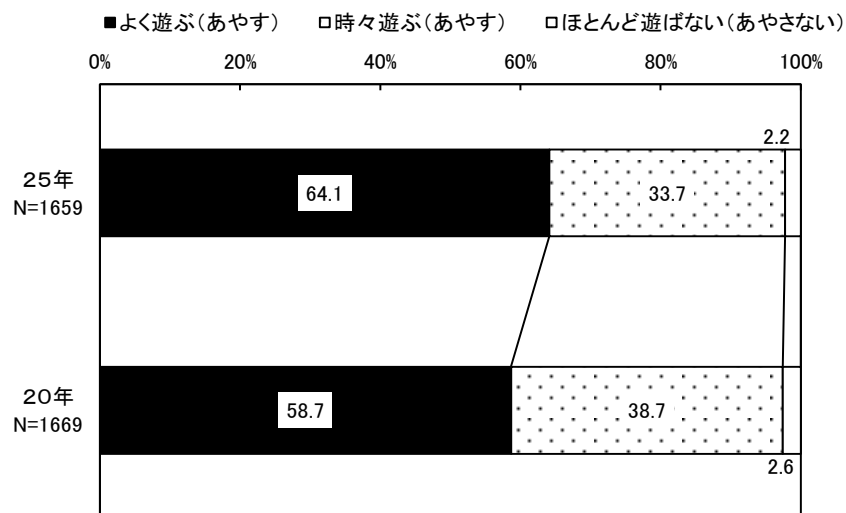
<母親の心身の状況（問５）と父親の精神的な支えとの関係（問１７）>

心身ともに快調である者は、その他の者と比較して、父親が精神的な支えに「なっている」と回答した割合が高くなっています。



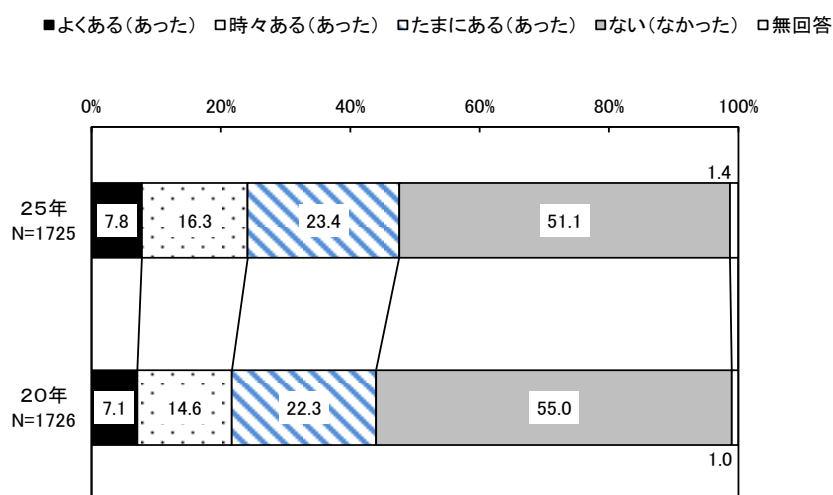
（８）父親が子どもと遊ぶ（あやす）こと（問１８）

全体では、「よく遊ぶ（あやす）」の割合は 64.1%であり、平成 20 年調査の 58.7%と比較すると増加しています。

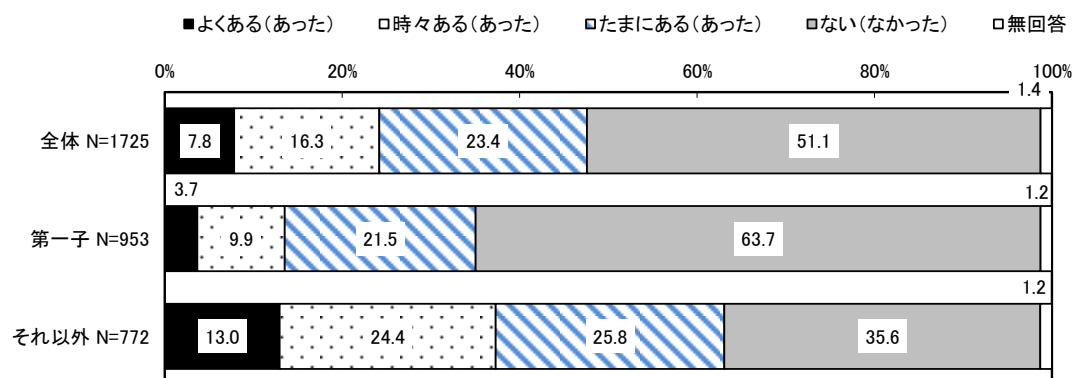


(9) 子どもに対して必要以上の厳しさで接すること (問19)

「よくある(あった)」、「時々ある(あった)」、「たまにある(あった)」の割合は47.5%であり、平成20年調査の44.0%と比較して増加しています。



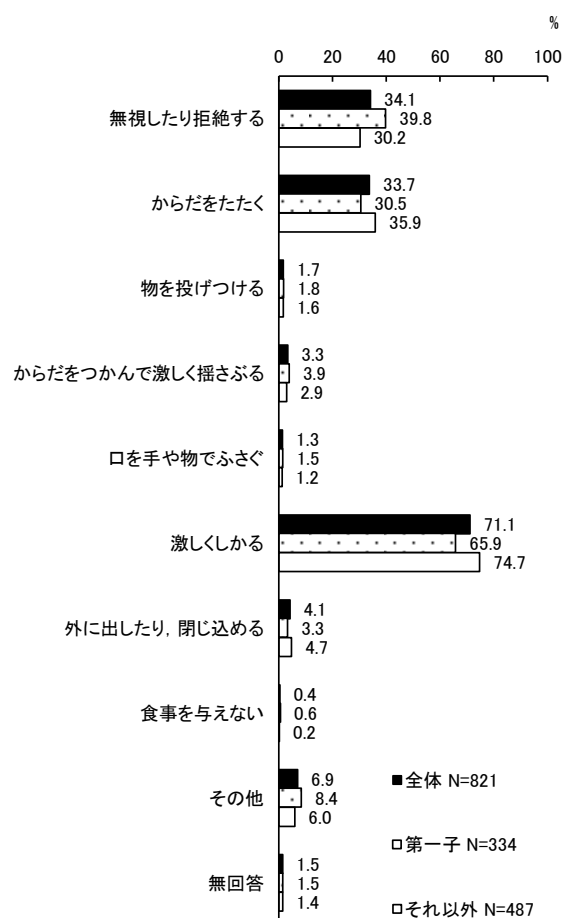
第1子とそれ以外では、それ以外の方が「よくある(あった)」、「時々ある(あった)」、「たまにある(あった)」の割合が高くなっています。



(10) 子どもに対して必要以上の厳しさで接した内容(補問19-2)

全体では、「激しくしかる」の割合が最も高く、次いで「無視したり拒絶する」、「からだをたたく」となっています。

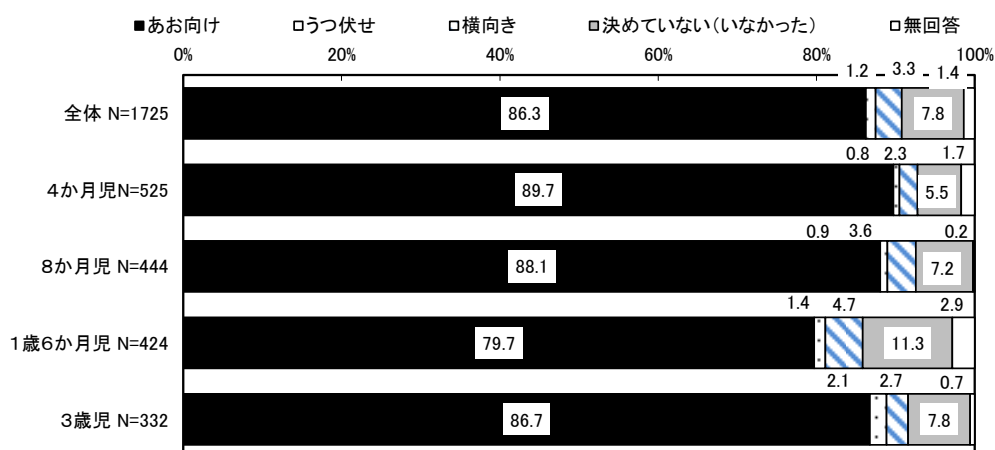
第1子とそれ以外では、第1子では、「激しくしかる」の割合が最も高く、次いで「無視したり拒絶する」、「からだをたたく」の順になっており、それ以外では、「激しくしかる」の割合が最も高く、次いで「からだをたたく」、「無視したり拒絶する」の順になっています。



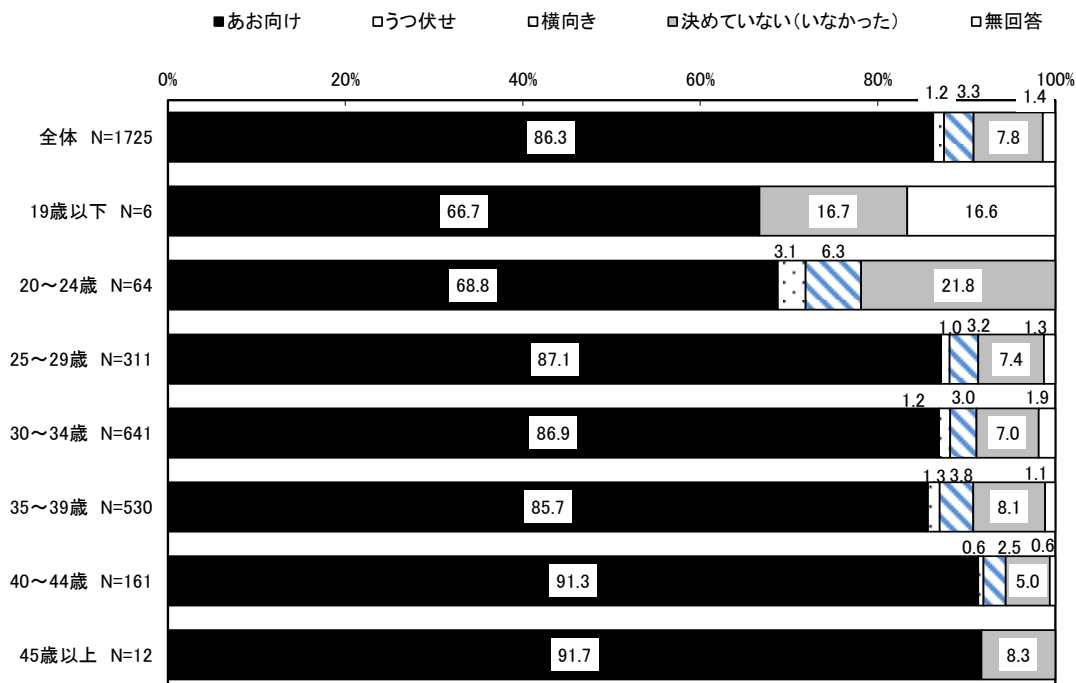
5 事故予防に関する意識について

○寝返りができるまでの寝かせ方（問20）

「うつ伏せ寝」は 1.2%となっています、



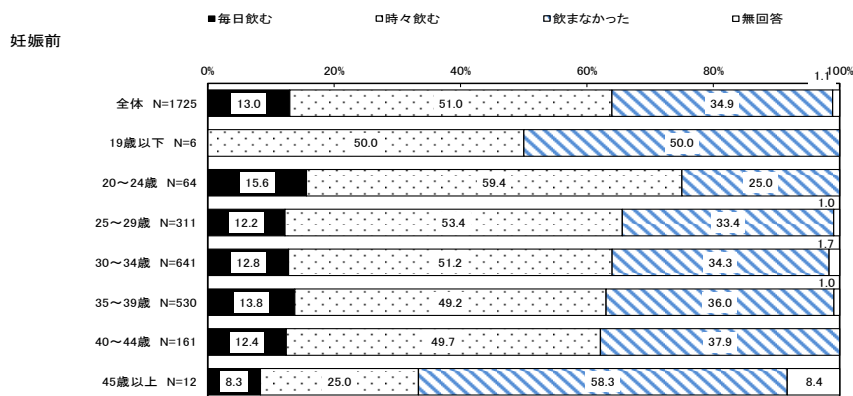
母親の年齢別では、20歳から24歳の母親で「うつ伏せ寝」の割合が最も高くなっており、寝かせ方を「決めていない（いなかった）」の割合も最も高くなっています。



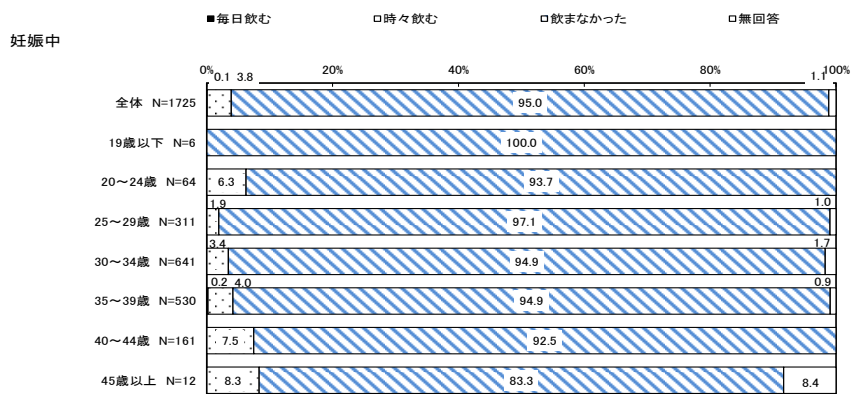
6 家族の飲酒と健康への意識について

(1) 母親の飲酒（問21）

妊娠前は、「毎日飲む」が13.0%であり、「時々飲む」を合わせると64.0%となっています。

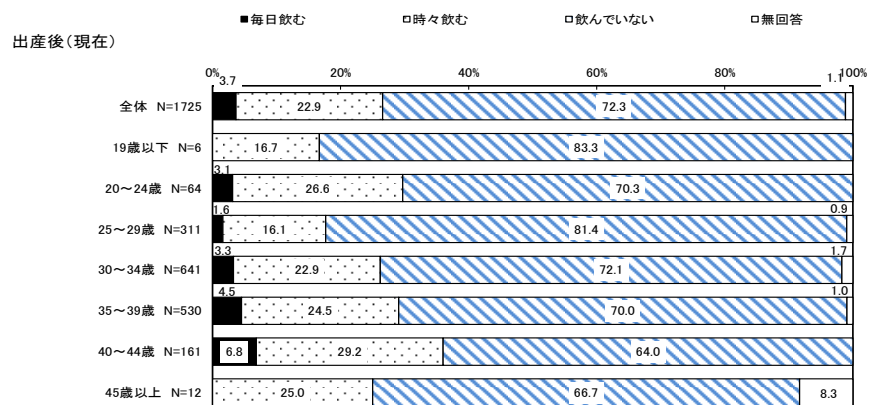


妊娠中は、「毎日飲む」の割合は0.1%であり、「時々飲む」を合わせると3.9%となっています。妊娠前と比較して、妊娠中に飲酒している割合は大幅に減少しています。



出産後（現在）は、「毎日飲む」が3.7%であり、「時々飲む」を合わせると26.6%となっています。

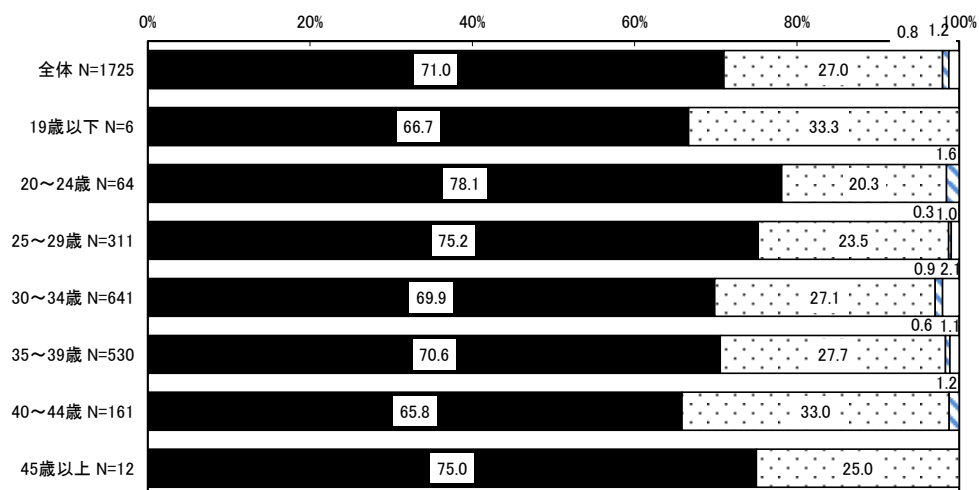
妊娠中と比較して産後に飲酒している割合は大幅に増加していますが、妊娠前と比較すると減少しています。



(2) 飲酒が妊娠・授乳中の子どもへ与える影響（問22）

全体では、「健康への悪影響はあると思う」の割合は、71.0%となっています。

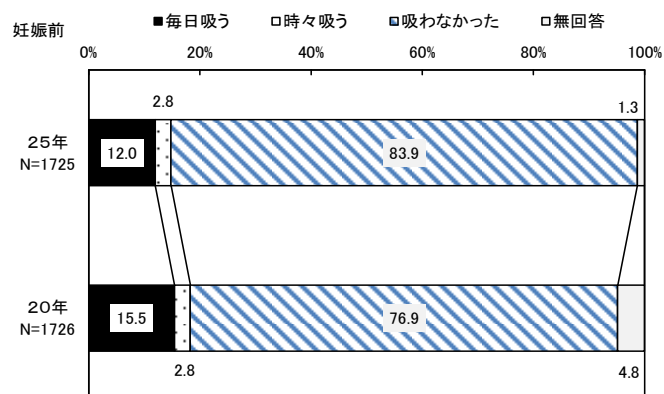
■健康への悪影響はあると思う □健康への悪影響の可能性はあると思う □健康への悪影響はないと思う □無回答



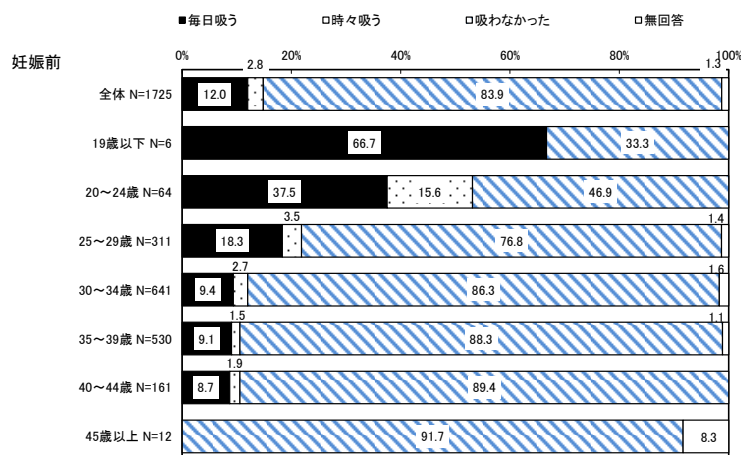
7 家族の喫煙と健康への意識について

(1) 母親の喫煙（問23）

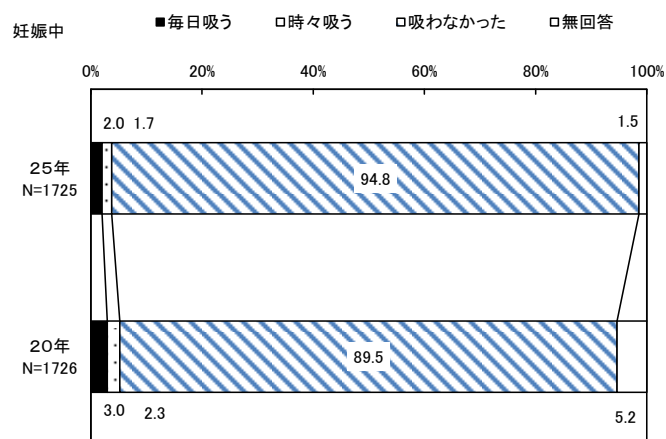
妊娠前は、「毎日吸う」、「時々吸う」の割合が 14.8%であり、平成 20 年調査の 18.3%と比較して減少しています。



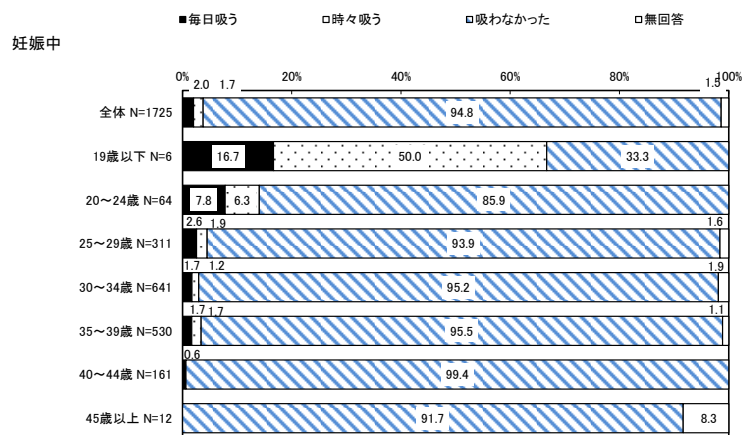
母親の年齢別では、24 歳以下の母親に「毎日吸う」、「時々吸う」の割合が高い傾向があります。



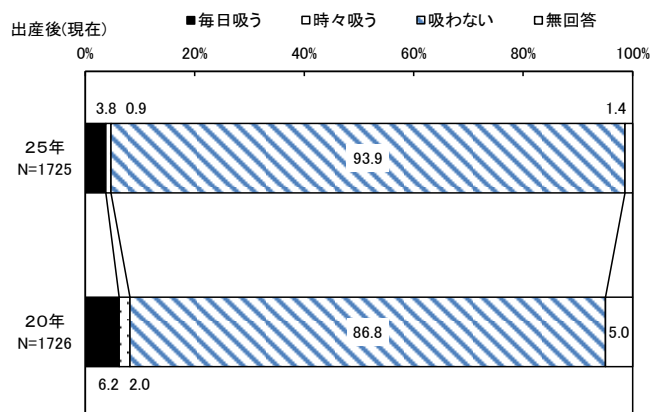
妊娠中は、「毎日吸う」、「時々吸う」の割合は 3.7%であり、平成 20 年調査の 5.3%と比較して減少しています。また妊娠前と比較して大幅に減少しています。



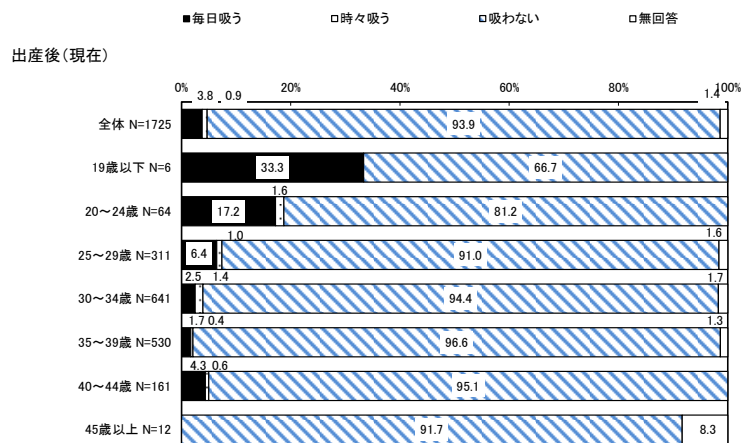
母親の年齢別では、24 歳以下の母親に、「毎日吸う」、「時々吸う」の割合が高い傾向があります。



出産後（現在）は、「毎日吸う」、「時々吸う」の割合は 4.7%であり、平成 20 年調査の 8.2%と比較して減少しています。また、妊娠中と比較するとやや増加していますが、妊娠前と比較すると減少しています。



母親の年齢別では、24 歳以下の母親に、「毎日吸う」、「時々吸う」の割合が高い傾向があります。

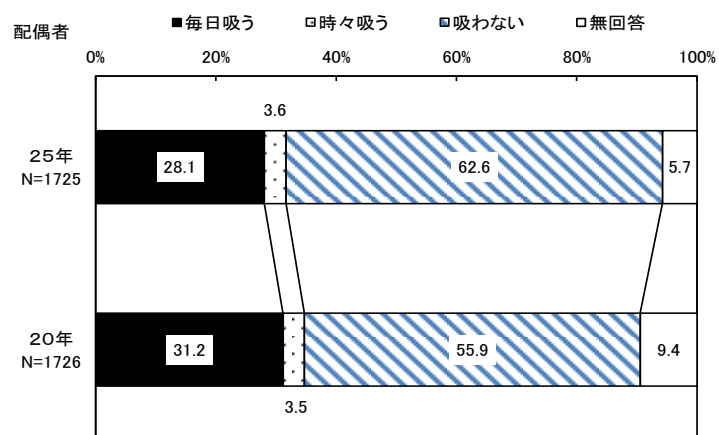


妊娠前・妊娠中・出産後（現在）のいずれの時期においても、24 歳以下の母親に喫煙率が高い傾向があります。

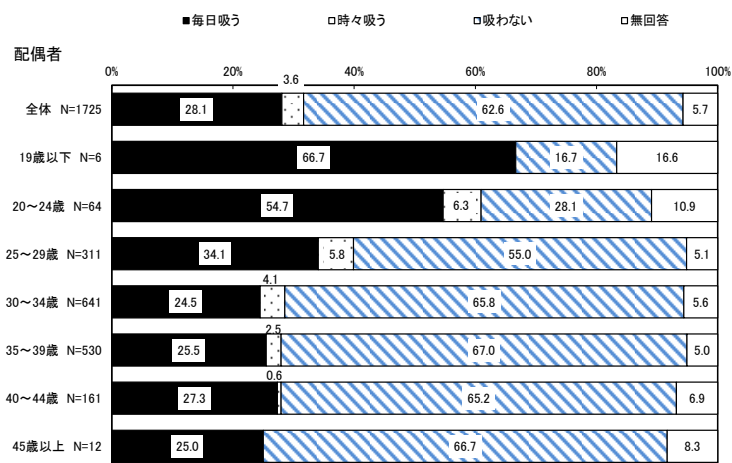
(2) 同居人の喫煙

【配偶者】

「毎日吸う」、「時々吸う」の割合は31.7%であり、平成20年調査の34.7%と比較して減少しています。

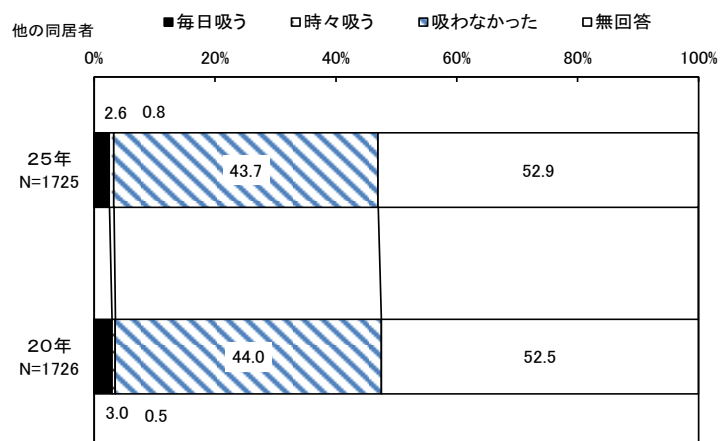


母親の年齢が24歳以下では、配偶者が「毎日吸う」の割合が高くなっています。

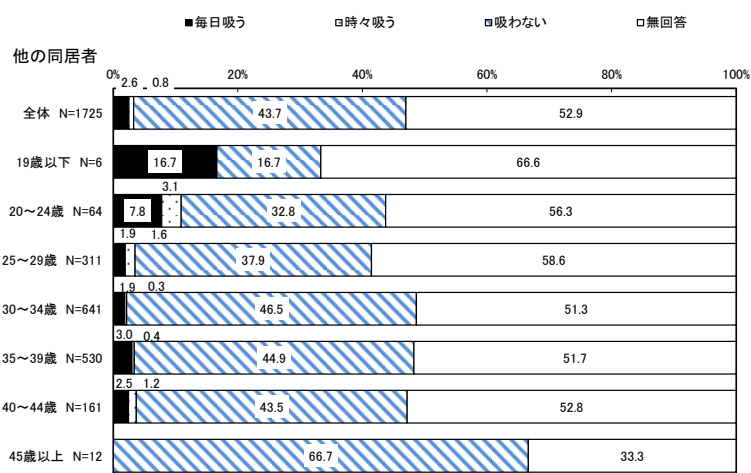


【他の同居者】

「毎日吸う」、「時々吸う」の割合は、3.4%となっています。



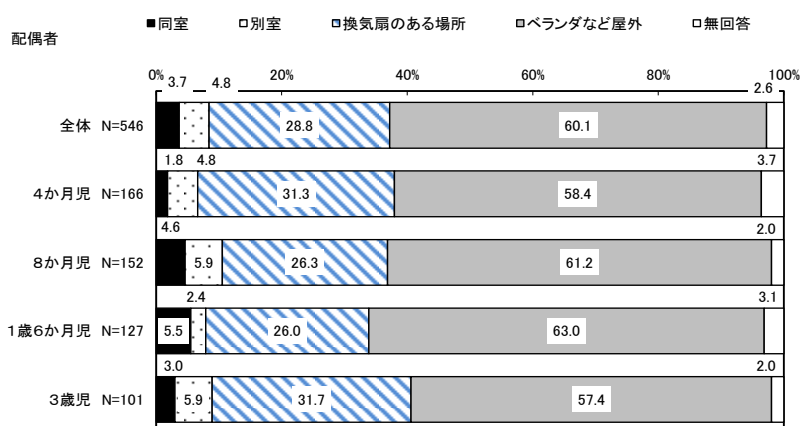
母親の年齢が24歳以下では、他の同居者が「毎日吸う」の割合が高くなっています。



（３）同居者の喫煙場所（補問２４－２）

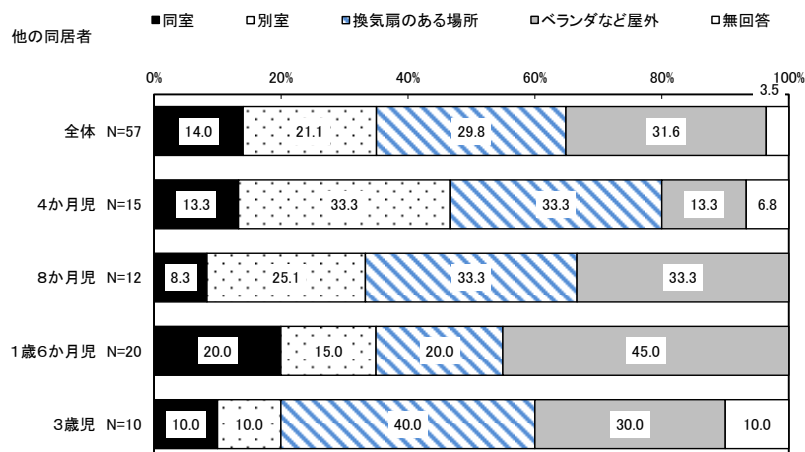
【配偶者】

配偶者では、「ベランダなど屋外」で喫煙する割合が60.1%と最も高くなっています。



【他の同居者】

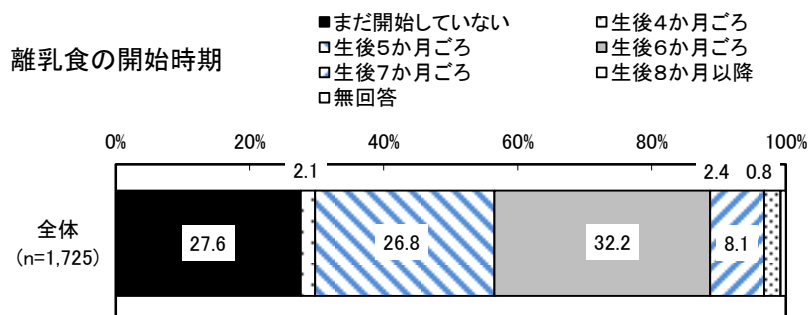
他の同居者では、屋内（「同室」、「別室」、「換気扇のある場所」）で喫煙する割合が、64.9%と高くなっています。



8 食生活について

(1) 離乳食の開始時 (問 26)

離乳食を開始する時期は、「生後6か月ごろ」の割合が最も高く、「生後5か月ごろ」と合わせると 59.0%です。

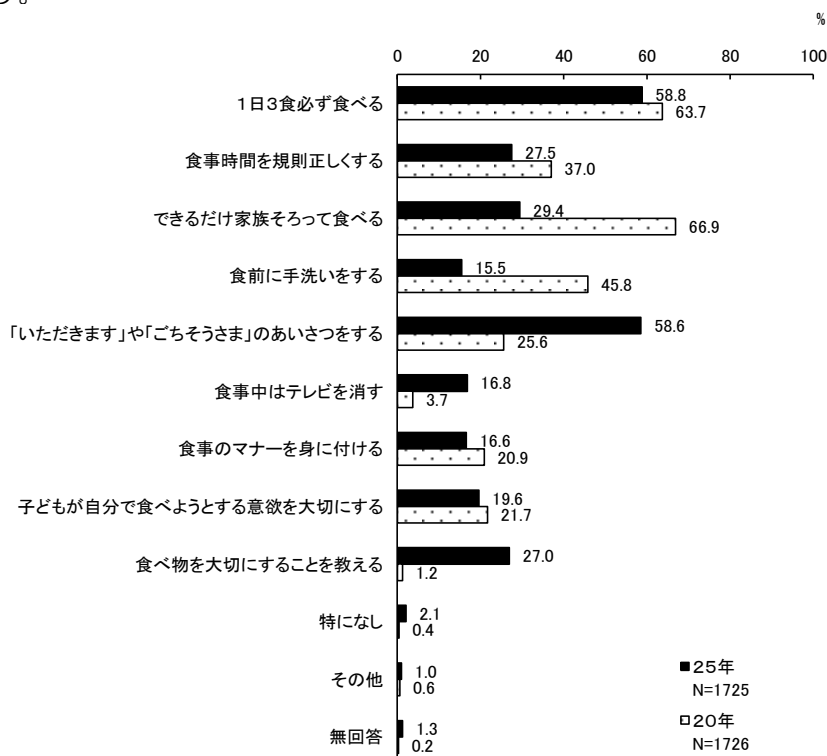


(2) 家族の食生活で気をつけていること (問 27)

「1日3食必ず食べる」、「いただきます」や「ごちそうさま」のあいさつをする」の割合が高くなっています。

平成 20 年調査と比較して、「いただきます」や「ごちそうさま」のあいさつをする、「食事中はテレビを消す」、「食べ物を大切にすることを教える」の割合は増加しています。

一方、「できるだけ家族そろって食べる」、「食前に手洗いをする」の割合は大幅に減少しています。

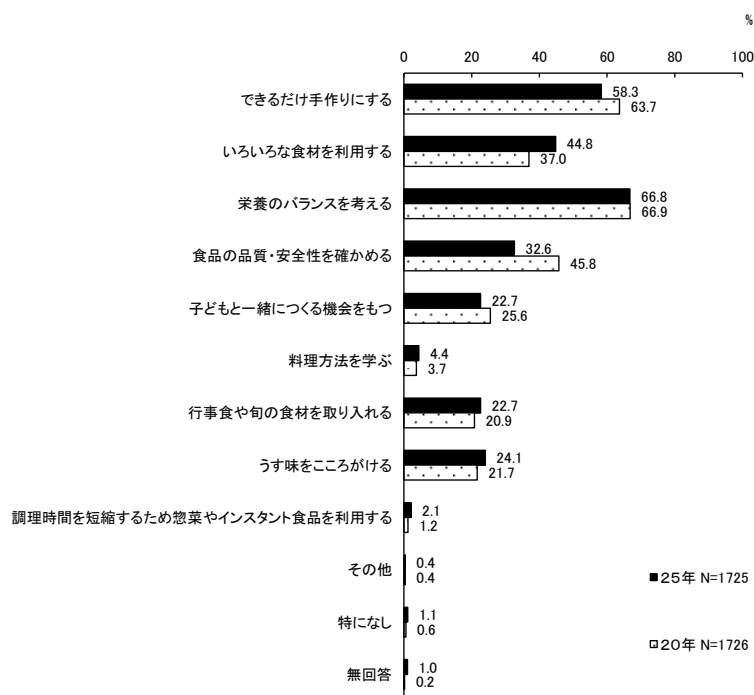


（３）家族の食事作りで、工夫したり、これからしようと思うこと（問２８）

「栄養のバランスを考える」の割合が最も高く、次いで「できるだけ手作りにする」の割合が高くなっています。

平成 20 年調査と比較して、「栄養のバランスを考える」の割合はほぼ同じですが、「いろいろな食材を利用する」、「行事食や旬の食材を取り入れる」、「うす味をこころがける」の割合が増加しています。

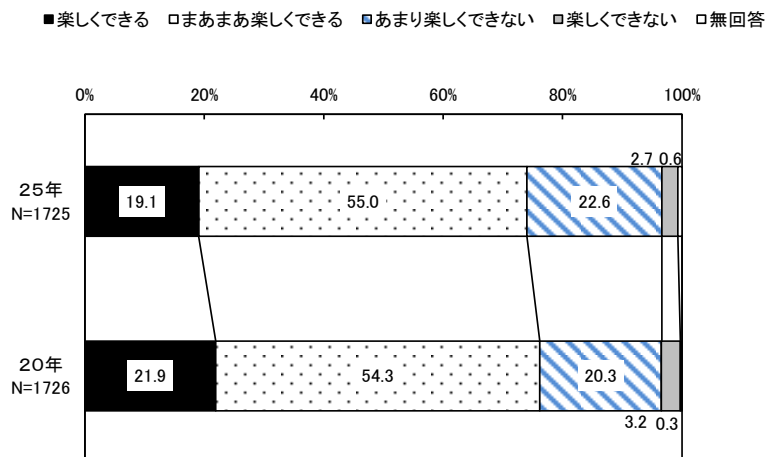
一方で、「できるだけ手作りにする」、「食品の品質・安全性を確かめる」、「子どもと一緒に作る機会をもつ」の割合は減少しています。



（４）食事作りが楽しくできるか（問２９）

「楽しくできる」、「まあまあ楽しくできる」の割合は 74.1%となっており、平成 20 年調査の 76.2%と比較してやや減少しています。

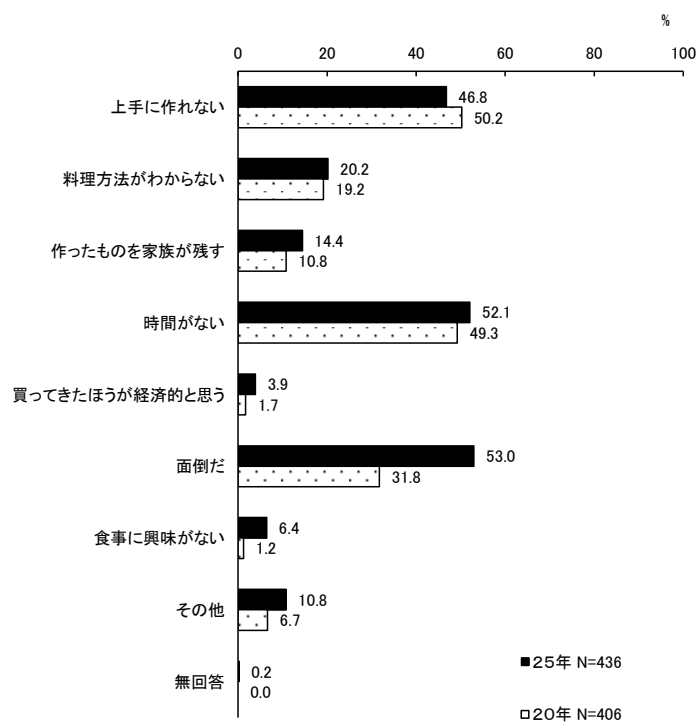
一方で、「あまり楽しくできない」、「楽しくできない」の割合は、23.5%から 25.3%とやや増加しています。



(5) 食事づくりが楽しくできない理由（補問29-2）

「面倒だ」、「時間がない」、「上手に作れない」の順で割合が高くなっています。

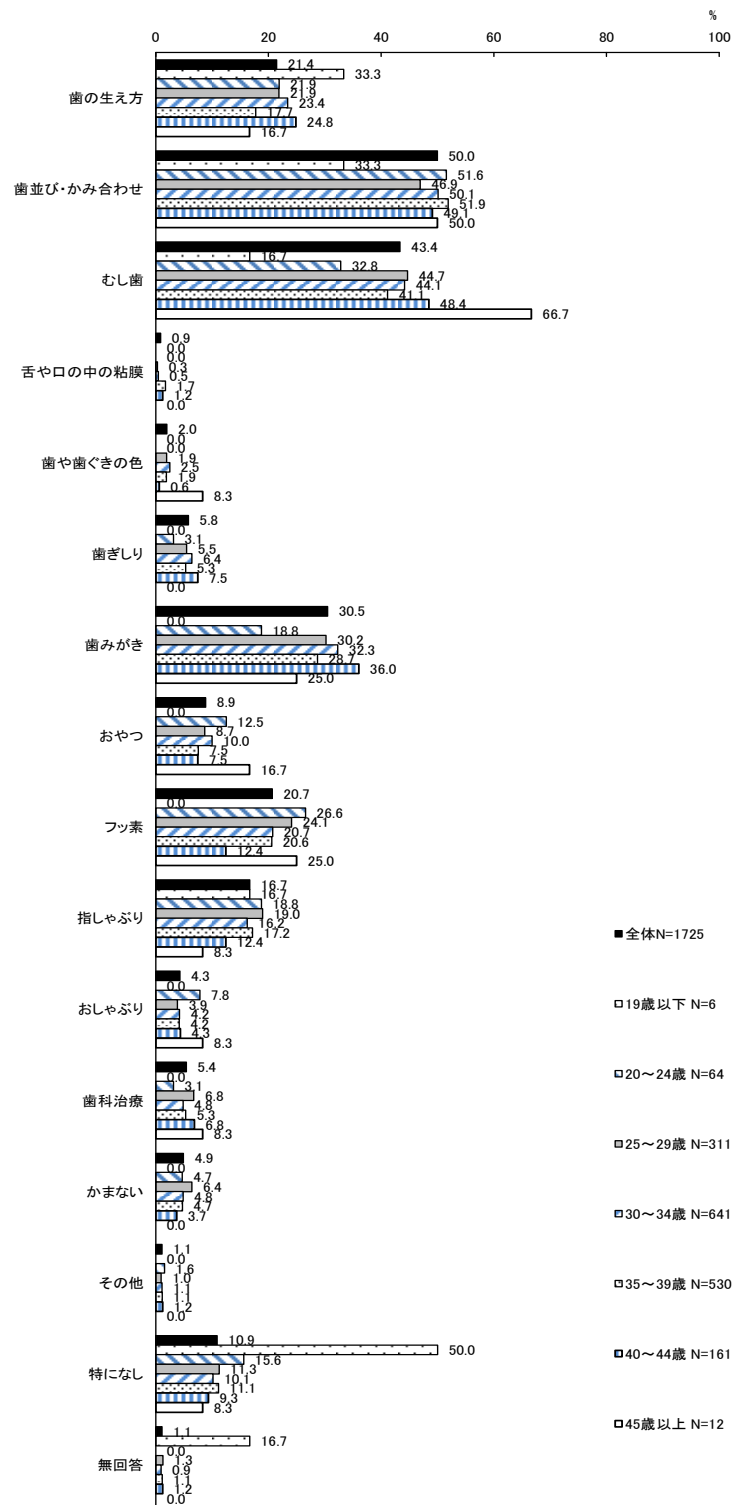
特に、「面倒だ」の割合は53.0%であり、平成20年調査の31.8%と比較して大幅に増加しています。



9 口腔の健康に関する意識について

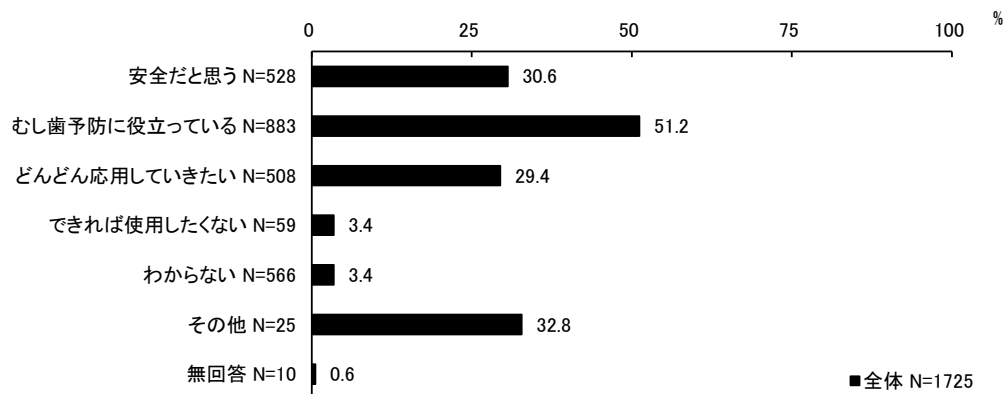
(1) 子どもの歯と口で知りたいことや心配なこと (問32)

「歯並び・かみ合わせ」の割合が最も高く、次いで「むし歯」、「歯みがき」となっています。



(2) 乳幼児むし歯予防対策（フッ化物歯面塗布）について思うこと（問33）

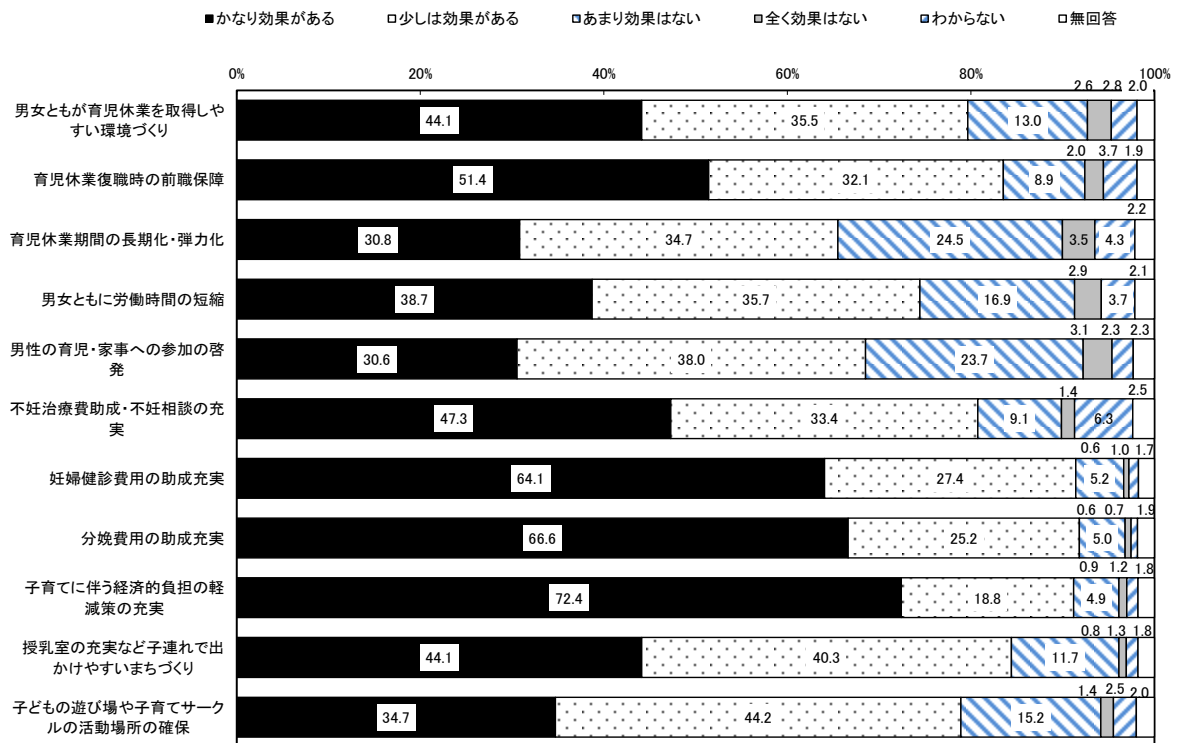
「むし歯予防に役立っている」の割合が、51.2%と最も高くなっています。



10 少子化対策について

○少子化対策に効果があると思う項目（問34）

「子育てに伴う経済的負担の軽減策の充実」の割合は72.4%と最も高く、次に「分娩費用の助成充実」の割合が66.6%、「妊婦健診費用の助成充実」の割合が64.1%と、経済面での支援策が上位3位となっています。



**京都市
母子保健に関する意識調査
【結果報告書】
(概要版)**

発行年月日 平成26年10月

京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

電話：075-222-3420 FAX：075-222-3416

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-1-0-0.html>

京都市印刷物番号 第263102号



この印刷物は、不要になりましたら「雑がみ」としてリサイクルできます。

コミュニティ回収や古紙回収等にお出してください。

